



Subaru

昴 男声合唱団

ニュース No.184 09. 9. 26

みな肺で死ぬる女工の募集札
 売値のよい娘のきれいさを羨まれている
 さん壕で読む妹を売る手紙
 タマ除けを産めよ殖やせよ勲章をやろう
 高粱（コウリヤン）の実りへ戦車と靴の鋌（びょう）
 屍（しかばね）のゐないニュース映画で勇ましい

渡辺武 10周年コンサート実行委員長 と

橋本邦久「昴」団員 と



鶴彬
(つるあきら)



暁を抱いて闇にゐる蕾

手と足をもいだ丸太にしてかへし

などを詠った戦前の反戦川柳作家・鶴彬（つるあきら・写真）は、今年で生誕100年、大坂城の中に顕彰碑が建てられているが、顕彰碑建設の裏話と鶴彬について、渡辺武（わたなべ たける）元大阪城天守閣館長（写真・次ページ）が講演することを知り、出かけた。

▼鶴彬は1909年（明治42年）、石川県の高松町に生まれ本名は喜多一二（きた かつじ）と言う。

高等小学校を卒業して大阪の町工場で働きながら新興川柳運動の先駆者森田一二に学び、16歳の時、川柳誌に作品が掲載され世に出た。処女作は「暴風と海の恋を見ましたか」だった。

▼1,927年（昭和2年）上京、19歳で全日本無産者芸術連盟（ナップ）に参加してプロレタリア川柳の実践活動をした。2年後に金沢第7連隊に入営、一連の反軍・反戦活動で重営倉に入れられ、翌年連隊赤化事件

